

第3回 令和5年台風13号災害対応に関する市民懇話会 議事録

1 日時 令和6年1月31日（水） 午前10時から正午まで

2 会場 日立市役所4階 庁議室兼防災対策本部室

3 出席者

区分	人数	備考
委員	21名	座長 信岡 尚道 委員（茨城大学工学部教授） 副座長 中島 美那子 委員（茨城キリスト教大学教授）ほか ※欠席者 1名
事務局	11名	総務部長、市長公室長、財政部長ほか
その他職員	13名	総務課長、政策企画課長、各部政策監ほか

4 議事内容

(1) 日立市における今後の自然災害の対応に関する提言（案）について（別冊）

（座長から「1 基本的な考え方について」、事務局から「3 課題と要望について」説明）

【委員からの意見等】

発言者	内容
委員	昔、災害のときに発揮したのは向う三軒両隣の協力体制と言われたが、今でも同じであると考えている。 しかし、それぞれのコミュニティで組織する町内会や自治会の組織率はおそらく半分以下になってきており、特にお年寄りが脱退すると、孤立しやすく、声も掛けづらいという状況がある中で、今後の自治会や町内会の在り方まで提言で触れて欲しかった。全く諦めてしまうのか、あるいは、何か新しい仕組みを作るのかを踏み込んで検討するべきである。
座長	基本的な考え方で少し触れてはいるが、災害対応への検討を通じて、平時からコミュニティの力を育むことが可能であるため、もっと明確になるような形にしていきたいと思う。
事務局	加筆については、座長と相談しながら検討したい。
座長	提言書の基本的な考え方、もしくは、市のこれまでの政策の中で関係するものと合わせた形で追記できるかを検討したい。
委員	避難行動要支援者の支援や避難所の在り方では、コミュニティのウエイトが相当あると感じるが、各コミュニティが、小学校と合同で防災訓練や避難所開設訓練を実施していくことは本当に重要であると思っている。 能登半島地震があった地区では、ここ10年間、毎年避難訓練を実施していたおかげで、全員が高台に避難して津波から助かったという話があった。

発 言 者	内 容
委員	<p>そのため、訓練の大切さを地域の皆さんに周知しながら、今後も実施していきたいと思っている。また、コミュニティの力を発揮できるように、今後も市と協力しながら実施していきたいと思っている。</p>
座長	<p>提言書では、市がコミュニティと連携して、訓練に参加してくれない人を参加できる仕掛けづくりにも触れている。とにかく、一番は能登半島地震の事例のように訓練を続けていくことが大切である。</p> <p>災害は忘れた頃にやってくると言われるが、毎年訓練をすれば忘れない。</p> <p>これから先もいろいろと問題点がでてくると思うが、市とコミュニティ、市民全体で解決しながら進んでいく形が取ればよいと思っている。</p>
委員	<p>今では、ゴミの収集を共同でやりたがらない若者が増え、また、各地にあった子ども会や町内会などもなくなってきたため、かつての地域の繋がりが薄れ、隣に住んでいるのが誰なのか、何人家族なのかも分からなくなってきた。</p> <p>こうした地域の疎遠な関係を見直し、普段のお付き合いを大事にしない限り、防災や避難活動を誘っても無理だと思っている。</p> <p>各家庭に配布している戸別受信機は、市内に全戸配布されているのか、半分くらいなのか、7割から8割配布されているのかを教えてほしい。</p> <p>もし配布されていない地域があり、防災無線で情報を得ている方がいるのであれば、悪天候でも聞こえる防災無線に見直してほしい。</p>
事務局	<p>防災無線の戸別受信機は、全戸配布をしている。もし周りの方でお持ちでない方がいらしたら、ご案内いただきたい。</p> <p>今回、この提言書にも戸別受信機の有効活用のための啓発や受信環境の改善への取組などを入れ込んでいるが、今後、市報やホームページなどを通じて、戸別受信機の有効活用が図られるよう広報していきたいと考えている。</p> <p>なお、3.11の東日本大震災発生から13年目を迎えるに当たり、3月5日の市報で防災関係の紙面を確保し、その中で戸別受信機の有効活用について市民の皆様にお知らせする予定でいる。</p>
委員	<p>若者の参加を含めたコミュニティづくりということで、4月に「まちのコイン・タッチ」を立ち上げる予定である。</p> <p>このシステムは、例えば、交流センターに来れば、ポイントが付与され、溜まったポイントでいろんなサービスが受けられるものであり、若い人がコミュニティ活動に参加しやすいシステムだと思っている。</p> <p>この仕掛けは、コミュニティ活動を推進する上で有効な手段であると考えているため、4月の稼働に向けて市民へのPRを行っていきたい。</p>

発 言 者	内 容
座長	<p>今の若い人は、コミュニティへの入り方も分からないし、コミュニティがどんなふうになっていて、コミュニティの会長、副会長、民生委員の方がどういう活動をされてるかなど基本的なことを知らないため動けないところがある。</p> <p>また、コミュニティに関わろうとしたときに、具体的にやることが決まっているとノルマのように感じて、自分たちが自らやっている感がないという学生の声も聞くため、普段からコミュニティに近づける入口があって、やらされる中でも、何か自分たちがやれることがないかを探し出せるような形を用意してあげることが大切なのではないかと思っている。</p> <p>現在は、自分の好きなことを追求できる個人主義の時代にあることを理解しながらも、やはり個人ではできないことや、助け合ったらいいこともあるということを若い人たちに伝えていくことも必要であると思っている。</p>
副座長	<p>子育て中の20代から40代の保護者の方たちは、町内会や自治会、地域のコミュニティに全く興味がないわけではないが、子どもが騒いで迷惑を掛けてしまうのが心配であったり、地域の先輩方との上下関係がある場合にうまく自分たちの考えを伝えることができないような話を聞くことがよくある。</p> <p>やはり、自分たちの意見が反映されて、みんなでまちづくりを進めていくという水平な関係を私達は先輩として考えていかなければならないと思った。</p>
委員	<p>高鈴野団地では、東日本大震災をきっかけに婦人会を作り、1か月か2か月に1回、自分たちで作ったお菓子など持参して、お年寄り宅への見守り活動を行っているという話を聞いて、災害が起きたときに必ず役に立つ取組であると思った。</p> <p>やはり、こうした取組を市報などで取り上げて、他の地域でも同様の取組が行われるようになれば、災害が起きたときに、本当に力になるのではないかと思った。</p> <p>また、提言書の中に学校教育における防災教育が入っているが、若い人たちが学校教育の中で学んだことが、災害が起きたときに生かされれば、心強いし、日立市も良いまちになると思った。</p>
委員	<p>今の婦人会の安否確認の話は民生委員としても安心してお任せすることができて非常に助かると思ったが、安否確認の活動を行う上で問題となるのは、近所の方とお付き合いのない方への情報伝達である。</p> <p>テレビの情報はピンポイントの情報ではないため、身近なきめ細かい情報は防災無線であると思うが、防災無線の戸別受信機があっても電池切れで使</p>

発 言 者	内 容
委員	<p>えないとか、そういったご家庭もあるし、いち早く災害弱者の方に災害状況を伝えるという意味では、戸別受信機をもう少し精度の良いものに更新していただきたいと思っている。昔の古い戸別受信機だと聞こえない場合もあるようである。</p> <p>また、ハザードマップ内で、耳の聞こえない方や目の見えない方といった避難行動要支援者をいち早く避難をさせる個別避難計画があるが、支援ができる子どもが近くにいれば問題はないが、夜の就寝中に災害が起きたときに、子どもが近くに住んでいない避難行動要支援者にどのように知らせるかについて、我々も何度も話し合ってるが、なかなか解決策が見い出せない状況である。</p> <p>そのため、そのような方に今が大変な状況になっていることを伝えられる機器があれば非常に助かる。</p>
座長	<p>この話は、防災に限らず、広く日常の支援に関わってくる部分でもあるため、市の関係課で共有していただきたいと思う。</p> <p>解決方法を考えていくときに、うまくいっているところは、そのスタイルでどんどん進め、うまくいかないケースが出たときには、また別の方法を考えていくというように、まず計画を立て、それが本当に実行できるかを考え、実行していくことが必要である。</p>
委員	<p>副座長から、子育て世代がコミュニティに積極的に関わっていく機会がないという話があったが、私ども交通安全母の会は、幼稚園、小学校を対象とした保護者が会員となっており、市役所や警察の方と一緒に高齢者宅を訪問し、交通安全やオレオレ詐欺の被害防止などの啓発活動を行っている。</p> <p>新たに何かを作ることも大切ではあるが、既存のものにプラスアルファして、何かコミュニケーションを取れる活動を検討してもよいのではないかと思った。</p>
座長	<p>今までの活動にプラスして、弱い部分をカバーしていくことは、すごく効率的でうまく進む方法であると思う。</p>
委員	<p>私は、行政相談員として行政に関する苦情等を受け付けているが、コミュニティに関して、若い人たちからは「何をしたいのか分からない」や「入りづらい」などの意見をたくさんいただいている。</p> <p>提言書には、「一元化」や「プロアクティブ」、「リスクシナリオ」、「PDCAサイクル」など、大切なキーワードがたくさん入っており、私達は常にこれらのキーワードを頭に置いておかないと、今後10年、20年、30年後にまた同じことを繰り返すことになると思うため、これについては組織づくりなども含めて大事にしてほしいと考えている。</p>

発 言 者	内 容
座長	<p>その中でも、リーダーの養成と発掘というものがこれから重要になってくると思っている。50年後、確実に子どもの数が減り、また、市外からも転入してくる方がいない、逆に市外に転出してしまう方が多くなる中で、高齢者がどんどん増えていく。そうすると、コミュニティを運営する方もそれなりの年齢となり、やり手がいなくなってしまうことが予想される。</p> <p>それで、新しい形のコミュニティを作ろうと、今、頑張っている組織がたくさんあるが、それも一般の市民には正確に伝わってないのが現状である。</p> <p>学校教育の中では、いろんな出前教室が実施されているが、それは、広い意味でコマーシャルになると思っている。子どもたちが、そういう教室に参加することで、それを家に持ち帰って、お父さんやお母さん、おじいちゃん、おばあちゃんに話をするので広がっていくからである。</p> <p>また、若い人たちは、今、スマホでいろんな情報を近くの人に投げかけているが、そういう情報はすごく生きた情報であり、今回の災害のときにも、個人的なグループ内ではあるが、相当活躍したのではないかと思っている。</p> <p>そういう意味で、口コミで広がった情報収集を何とか公の形で広げる形を取ることができないかと考えている。</p> <p>さらに、リーダーの発掘、養成については、地区や地域など、それぞれの場所でやられているが、私たちを含めて、そういったことを話す場があればよいと考えている</p> <p>とにかく、これからは「備えを常に」という言葉を念頭に置きながら、実効性のある組織を構築して行動していくことが必要である。</p> <p>やはり、総合計画との連携が重要であると考えているため、提言書の基本的な考え方の最後の方で総合計画との関係には触れているが、もう少し書き込みたいと思う。ぜひ市が中心となって、そういう動きを市民とともに活性化することができれば、非常にありがたいと思っている。</p>
委員	<p>今、コミュニティの話が出たが、社会福祉協議会は、コミュニティの皆さんにお年寄りの見守り活動などを、いろんなことをボランティアでやってもらっている。そのため、自治会や町内会がなくなることによって、コミュニティの活動がだんだん減少していくことはあってはならないと思っており、これは社会福祉協議会にとっても非常に大きな問題となっている。</p> <p>これまで、災害ボランティアセンターの話が出てこなかったため、説明させていただきたい。</p> <p>社会福祉協議会では、9月11日の月曜日にボランティアセンターを立ち上げ、9月11日から10月9日の29日間で、派遣の要請が182件、ボランティアを派遣した人数が2,310人である。その内訳として、個人による申込みが831人、企業・団体による申込みが59の事業所等から1,479人である。</p>

発 言 者	内 容
委員	<p>企業・団体から申込みが1,479人と多いのは、日立市の特徴だと思っている。具体的には、日立製作所の野球部や青年会議所、商工会議所の青年部、それから、明秀学園日立高等学校、日立市役所の方からも来ていただいた。</p> <p>一方、個人による申込みで一番遠方から来ていただいたのは香川県であり、関東では東京都のほか、千葉県、埼玉県、神奈川県からも結構な人数に来ていただいた。</p> <p>立ち上げ当初、マスコミの方からボランティアの数が足りていないという情報が流れていたが、やはり、平日は皆さん仕事をされ、学生は大学に行っているため、集まりづらいのは致し方ないと思っている。</p> <p>9月の16、17、18日の3日連休では、1日当たり300人程の人数が集まり、17日の日曜日は最も多い330人であった。</p> <p>このボランティアをどのように集めるかが問題になるが、茨城県ではボランティアの登録制度があり、県内に住む個人での登録や団体での登録を推奨している。</p> <p>一方、日立市の社会福祉協議会は、企業・団体とネットワークを組んでいるため、そういう企業・団体に日頃から登録をしてもらい、いざ災害が起きたときに声を掛けて、来ていただくというシステムになっている。</p> <p>そのため、これからやるべきことは、一つでも多くの企業・団体に声掛けをして登録していただくことが大事になってくると思っている。</p> <p>個人による登録は、実際に目の前で災害が起こっていなければ、登録していただくことはなかなか難しいと思っている。</p> <p>社会福祉協議会としては、今後できるだけ大きな企業に声を掛けて、1人でも多くのボランティアに駆け付けていただけるよう努めていきたいと考えている。</p>
座長	<p>9月8日の線状降水帯のときに、頑張った人、良かった事例などを一つ記録に残したいと思っているが、今のような記録を参考資料として提言書に入れ込むことはできるか。</p>
事務局	<p>前回の第2回の市民懇話会の資料の中で、コミュニティの助け合いの事例を紹介し、既にホームページで公開している。</p>
座長	<p>良い事例があると、それが気付きになって、自分も参加しようという輪が広がるのが期待できるため、提言書と離れる形になるかもしれないが、ホームページに載せるか、第3回のこの会議資料の中に追加で入れる形も考えられるが、それよりももっといい形があれば検討したいと思う。</p> <p>また、ボランティアの方も本当にご苦労だったと思う。そのときの災害の状況によって、ボランティアの動き方は変わってくるため、臨機応変に対応しないといけないし、その元となるボランティアの人数をいかに集められるかが非常に重要になってくる。</p>

発 言 者	内 容
座長	<p>それができるかどうかは、やはり日頃の部分がかなり影響すると思っている。ボランティアの人手が足りないときにどのように周知をしていくかについて、提言書の部分でもう少し踏み込んで書けないか検討したいと思う。</p>
委員	<p>17 ページの課題と要望についての(2)の「ウ 避難所の備蓄品等の充実」の要望欄で「多様な事情を抱える避難者を想定した資機材、備蓄品等の配備」とあるが、能登半島地震で被災された方が、避難所で生活するために必要なものや不足して困っているものをテレビやSNSを通じて聞いたが、日立市の防災備蓄倉庫には、アルファ米などの備蓄食料や備蓄機材などのほかに、女性の生理用品やベビー用品などがどのくらい備わっているのか教えてほしい。</p>
事務局	<p>女性の生理用品については、20 パック入りの箱が2箱、ベビー用品としては、紙おむつ1袋が市内全ての小中学校の防災備蓄倉庫に備えられている。</p> <p>また、それとは別に福祉避難所として、妊産婦の避難所を確保しており、粉ミルクなどを備蓄している。</p>
委員	<p>日立市で配布している防災ハンドブックには、すぐ持ち出せるものや家に置いておくもの、車の中に入れておくものなど、家庭で用意しておく避難用品の一覧があって、そういうものを家庭で用意しておくことは、とても重要であると思う。</p> <p>日立市で防災備蓄倉庫に備蓄されている生理用ナプキンやベビー用品の数量をもう少し増やしていただいて、その数量も防災ハンドブックに掲載していただけると、若い世代や子育て世代、あるいは妊婦さんがいる家庭は、安心して日立市に住めると思った。</p>
事務局	<p>多様なニーズに応える備蓄品の配備という要望をいただいているため、今のご意見をできる限り反映できるよう考えていきたい。</p>
座長	<p>能登半島地震の被災地の話をすると、国は物資を届ける能力があるにも関わらず、届かない状態になっている。その一番の要因は道路が寸断されて、届けるのに時間がかかっていること。2番目として、これが非常に重要であるが、備蓄品は3日間持つくらいの量しかないため、その後、足りないものの情報を集めて、それを国に投げようとしても、能登半島地震の場合、そういう情報すら集めることが困難な状況であるため、問題となっている。</p> <p>ただ、それから学ぶところがあって、我々はそうなったときに、すぐに情報収集ができる市役所があり、必要なものや不足しているものを要請すればすぐに運んでもらえる。</p> <p>しかし、それができる自治体とできない自治体では、実際に災害が起きたときに、必要な物資に足りる、足りないのミスマッチがよく生じてしまう。</p>

発 言 者	内 容
座長	<p>また、災害が起きてから時間が経つと徐々に日常に戻りはじめ、必要な物資が変わっていくため、遅れて届いた物資は必要ないものになってしまう。</p> <p>つまり、時間との勝負であり、いかにして情報を集めるかが大切になるが、人手を使うのにも限界があるため、できるだけインターネットで情報を収集できる形を取ることができればよいと思っている。</p> <p>その辺も含めて情報を一元化し、収集するシステムの中に、組み込んでいただければよいのではないかと思った。</p>
委員	<p>県道十王・里美線は土砂災害発生後、未だ雨が降ると通行止めになっている。再び土砂崩れが起きて通行止めになったら、孤立状態となり、けが人などが出た場合にどうするのか。二次災害が起きるのではないか。</p> <p>日立市の行政管轄ではないと思うが、県の方に働きかけて、雨が降っても通行止めにはしないよう、県の方に要望してもらいたい。</p>
事務局	<p>ご意見については、都市建設部や他の関係する部署に共有したいと思う。現状では、雨が強くなったときに県道も清掃センター前の市道なども一定の雨量を超えると、通行止めをしている。</p> <p>現在、復旧工事を行っているが、やはり土砂崩れが大規模であったため、復旧工事にかかなりの時間的にかかるということで、一般車両については、その時間の通行を規制する対応を取っている。しかし、その時間帯でも、緊急車両等は通行できるため、例えば、大雨で通行止め期間中に、高原の方で救急車の要請があれば、緊急車両として安全を確認しながら通行することができるため、その点については安心していただきたい。</p> <p>県の方でも早期の復旧工事に努めているため、御理解をお願いしたい。</p>
座長	<p>今の工事は応急復旧であり、その後しっかりとしたものを作るため、かなりの時間を要していると思われる。</p> <p>再度、土砂崩れが起きたときに巻き込まれないように、今、規制をかけてるため、何とかそこはうまく折り合いをつけていただきたいと思っている。</p>
委員	<p>今回の災害で大きな怪我をされた方はいないが、怪我をしたり、命を落したり、それが能登半島地震のように大規模になったときに、例えば、医師会では、どんな形で動いていただけるのか教えていただきたい。</p>
委員	<p>医師会では、自らが事務局となって、市の防災対策課、地域医療対策、消防本部のほか警察、日立保健所、歯科医師会などで構成する日立市地域医療協議会を組織しており、その中で大規模災害事故対策専門委員会を作って、毎年、負傷者の救助を優先した事故災害を想定した防災訓練を行っている。</p> <p>昨年は、専用資機材を使用した家屋からの救助訓練や日立駅前で大規模な衝突事故が発生した想定で、一般車両と定期バスに閉じ込められた方を救護する脱出救護訓練を病院や消防などと連携、協力しながら行った。</p>

発 言 者	内 容
委員	<p>また、JMATのような医師を派遣する救助の仕組みもあるため、日本医師会や県医師会と連携しながら、速やかに対応できるよう対策を取っているところである。</p>
委員	<p>今話を聞いて、非常に安心した。</p> <p>日立市には山があるため、大きな災害が起こると、道路が通行止めとなり、特に、山間部においては孤立状態になる可能性がある。そういう事態になったときに、いろんな組織の連携、例えば、防災ヘリコプターなども必要になってくると思うため、市でも最悪の事態を考えて計画を立てていただきたいと思う。</p>
座長	<p>やはり訓練が必要である。机上でもよいので、訓練の計画を立て、何をしたらよいのかを考えていただきたいと思う。</p> <p>私が聞いている限りでは、大規模災害が起きたときには、全国から医療の支援が入り、災害対策本部からDMATにいかにか適切な情報を提供するかが非常に大切だと言われており、それによって、医療活動が変わってくるという話をしばしば聞くため、その辺もう一度点検していただきたいと思う。</p>
事務局	<p>大規模災害に関連して少し補足説明させていただくと、能登半島地震、また、9月8日の日立市の場合も同様であったが、国や県などから協力連絡員が市の災害対策本部に来て、どういう支援が必要なのかの情報を収集して、国や県に連絡するという体制が取られている。</p> <p>また、今回の能登半島地震の例では、全国からいろいろな支援が入っているが、日立市も給水車を派遣したり、被災家屋の調査や避難所を運営する職員を派遣している。茨城県としては能登町を支援対象とすることになっており、対口支援、カウンターパート支援と言って、どこの都道府県はどこの市町村を支援するというのが国から決められる。</p> <p>そのため、茨城県は滋賀県や和歌山県といったところと同様に能登町を支援しているわけである。そういった自己完結型で支援する理由としては、支援者がたくさん来ると、その支援者に何をやらせようかの調整にかなりの時間を要してしまうため、国が都道府県に割り振りをしたら、その都道府県が責任を持って支援を続けることになっている。</p> <p>現在、能登町の避難所運営や罹災家屋の調査については、茨城県がリーダーシップを取って県内市町村の職員を取りまとめ、派遣職員を送っている状況である。</p>
委員	<p>避難所の運営については、男女比が50%になるよう計画や運営の段階で対策していくことが提言書に書かれているが、避難してくる人の半数以上は女性であり、さらにお子様もいるため、備蓄品の見直しを早急に行った方がよいと考えている。</p> <p>備蓄品の内容を誰が決められているのか分からないが、お母さんなど女性の意見が反映されるのか確認したい。</p>

発 言 者	内 容
事務局	<p>避難所の運営については、各地域のコミュニティの自主防災組織からのご意見などを聞きながら改善を図ってきたが、今回の懇話会や能登半島地震などのケースも含めて、様々な備蓄品や避難所の運営についてもご意見をいただいているため、改めて検討しているところである。</p> <p>お子様を持つお母さんからのご意見はとても大事な視点であり、今後、ご意見をいただく機会を設けていきたいと考えている。</p> <p>備蓄品の内容については、これまで自主防災組織の女性などのご意見をいただいて改善を図ってきたが、さらに改善を加えていきたいと思っている。</p>
座長	<p>実際に被災された地域では、時間の経過とともに困りごとの内容が明確に変わってくるため、市は、被災者など住民の声を聞く機会を設けることがとても重要である。</p> <p>それによって、最終的に市民に伝わるような形の計画を立て、実行してもらえれるとよいと思っている。</p>
委員	<p>この提言書の達成度については、今後どのように確認していくのか教えてほしい。</p>
座長	<p>具体的な数値目標の設定までには至っていないが、毎年、対応状況の報告を上げてもらいたいと考えている。</p>
事務局	<p>今後、市に提言書を提出していただいた後、3月までの策定を目標に進めている日立市の災害復旧基本計画の中に、提言書の内容を踏まえた今後の取組を明記して位置付けていくことにしている。</p> <p>計画の中には、それぞれの取組について目標とする実施時期を含めて位置付け、それぞれの部署が計画に沿って取り組んでいけるように進めていく考えである。</p>
委員	<p>今回の9月8日の災害において、市内各地区の消防団は、消防本部からの指示を受けて、ハザードマップに基づいた体制を組んだところである。</p> <p>しかしながら、消防団員はボランティアであるため、なかなか若者が入ってこないと問題がある。</p> <p>消防団に入った若者の中には、入って良かったという声もあるため、各地区のコミュニティや地域の企業において、今回の災害を機に消防団活動への参加について、ご理解とご協力をお願いしたい。</p>
座長	<p>今の意見を提言書のどこに書き込んだらよいか事務局の考えはあるか。</p>

発 言 者	内 容
事務局	<p>資料の 18 ページ(4)の「地域における協力連携について」の「ア 地域自主防災活動の活性化」中の要望に出てくる「地域防災関係団体」は、まさに消防団や女性防火クラブをイメージしているところになる。</p> <p>今後、そういう関係団体との連携を深めていくという部分では、この要望の中に含まれている。</p>
座長	<p>ここに一つ項目を追加して、今の話をまとめて書き込んでいただきたいと思う。</p>
事務局	<p>検討させていただきたい。</p>
座長	<p>消防団員の人数が全国的に減少している問題はよくニュースになっている。やはり、災害現場を見てみると、消防本部の活動には限界があるため、消防団の活動はとても重要になってくる。ぜひ、それを提言書に書き込む形を考えたいと思う。</p>
委員	<p>日立市には天気相談所があり、毎日夕方5時近くになると、天気予報の防災無線が入るが、災害時における大雨情報などは天気相談所と全く関係ないのか教えてほしい。</p>
事務局	<p>毎日の情報の中には大雨情報の注意喚起といったメッセージを入れている。先日も低気圧に伴う雨や雪が心配された日があったが、そのときも防災無線のメッセージの中に、そういった情報を盛り込み、市民の方にできるだけ伝わるように発信するという考え方でやっている。</p>
委員	<p>今回の大雨のときには、そのような情報が全く流れなかったため、聞いてみた。</p>
事務局	<p>補足をさせていただくと、市の天気相談所には気象予報士いる。</p> <p>平常時の日立地区の天気予報を毎日、防災無線で流しているが、災害時、特に昨年の線状降水帯のときもそうであるが、急激な気象状況の変化については、基本的に気象庁が発表するデータをもとに流させていただいており、市の気象予報士が個別の気象情報を提供できるわけではない。</p> <p>ただ、前回の反省もあるが、そういった気象情報の提供につて、今回の懇話会でも課題として出させていただいているため、今後、改善を図れるように取り組んでまいりたいと考えている。</p> <p>現状の天気相談所の役割としては、通常気象情報の提供や、環境教育の部分などを中心としており、災害時の気象情報については、基本的には気象庁が発する警報や注意報をもとにお知らせしているということをご理解いただきたいと思う。</p>
座長	<p>いかなる情報も市民に届くことが重要であり、気象庁や气象台、天気相談所が連携して市民に情報がうまく伝わるよう点検していただきたいと思う。</p>

発 言 者	内 容
委員	<p>非常食の備蓄に関してお伺いしたい。</p> <p>日立市には、様々な国あるいは宗教をお持ちの方々が住んでいるが、例えば、ハラール対応食や、子供たちへのアレルギー対応の非常食の備蓄について、今後検討される余地はあるのか確認したい。</p>
事務局	<p>今のところ、アレルギー対応の非常食などの配備はできてない状況であるが、今回の要望でも多様なニーズ、様々な避難者の方を想定した備蓄品の配備等について検討していきたいと考えている。</p>
委員	<p>災害が起こる前から防災について考える学生は少ないため、授業の中で、災害が起きたときに学生ができることや、地域の中で貢献できることなどを教えていただければ、日常生活の中で防災について考える場面が多くなると感じた。</p> <p>やはり学校の授業において、防災教育を必要な学びとして提供していくことはとても大切であると思った。</p>
副座長	<p>ここに参加されている委員の皆様だけでも、いろんな取組をされてるということが分かったが、少しもったいないと思ったのは、日立市の活動が新しいものを含めて点でされてることである。市の活動を点でなく、面で繋いでいくことができれば、その点をみんなが知ることができ、お互いが協力し合うことに繋がると思っている。特に、この防災あるいは災害時のときはとても重要になると感じた。</p> <p>私も児童教育の立場で地域に入ってボランティア活動をしているが、本日、社会福祉協議会や医師会の話聞いて、私達教員や学生も点で活動し、大学組織として面で活動していないことに気付かされた。</p> <p>大学には専門の教員やボランティア活動を熱心に行う学生がたくさんいるため、ぜひ大学に声掛けをしていただいて、日立市全体の組織あるいは個人が点でなく、面で活動できるような仕組みづくりを進めていくことが必要であると思った。</p> <p>このことを提言書に含めることはできないと思うが、今回の提言書をまとめて、それで終わりではなく、また何年か後に見直す機会を作っていくってほしいと思った。</p>
座長	<p>3年ぐらい期間で点検することも、提言書に書き込みたいと思う。</p>

以 上